



都立足立工業高等学校長 栗田博康

会員並びに賛助会員のみなさまにはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成23年度より会長となりました東京都立足立工業高等学校長 栗田博康と申します。昭和53年に東京都立港工高等学校に自動車科教諭として採用されたときから、猪口明事務局長のもと微力ながら全国自動車教育研究会のお手伝いをさせていただいたのが始まりです。当時は、自動車の排気ガスによる光化学スモッグが問題となっておりました。日本の自動車メーカーは昭和53年排出ガス規制に対応させるため全力で技術開発に凌ぎを削り、まさに日本の技術開発力が世界に認められ、自動車業界が日本経済を引っ張っている時代でした。

あれから30年たち、自動車は私たちの生活になくてはならないものとなるとともに地球の温暖化が世界中の問題となり地球に優しい生活を求められるようになってきました。自動車も走行するときに、排出ガスを大量に出さない、ハイブリット自動車、電気自動車、燃料電池自動車などの開発が中心となっています。また、あらゆる制御にコンピューターが導入され、運転者が快適に安全に運転をできる自動車になってきました。まさに、今は自動車の歴史のなかで大きな変換期にあたっていると思います。

このような時代において、自動車科の生徒に教えなくてはならない基礎・基本とは何か、授業内容、実習内容・教材等を会員校でしっかり考えていかななくてはならないと同時に自動車科教諭の新しい技術に対する研修の機会の必要性も感じます。ますます全国自動車教育研究会の役割が増していると感じます。

中央教育審議会から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」答申が出されました。そのなかで、今後も専門学科は、我が国の社会の変化や産業の動向等に対応した職業教育を行う機関としての役割を果たしていくことが必要であり、国及び地方公共団体はその責務として、職業教育の振興を図るように努めなくてはならない」と記されています。今後も工業高校の重要性は変わりません。

全国自動車研究会としてやらなくてはならない事がたくさんあります。会員校との連携を密に検討していかなくてはならないと思います。今後ともご協力よろしくお願い致します。